Express5800/CS500a

はじめにお読みください

Empowered by Innovation NEC

Startup Guide スタートアップガイド

箱を開けてから本装置の初期設定を完了するまでの手順を説明します。このスタートアップガイドに従って作業してください。

856-124045-631-01　2005年4月　第2版

856-124045-631-01

⚠ 安全に関するご注意

装置をセットアップする前に「ユーザーズガイド」の「安全にかかわる表示について」、「使用上のご注意　-必ずお読みください-」をお読みの上、注意事項を守って正しくセットアップしてください。

⚠ 警　告

- ぬれた手で電源プラグの抜き差しをしないでください。感電するおそれがあります。
- 内蔵型オプションの取り付け・取り外しは電源コードをコンセントから抜いて行ってください。
- 雷が鳴り出したらケーブル類を含め装置に触らないでください。落雷による感電のおそれがあります。
- 「ユーザーズガイド」に記載されている内容を除き、分解・修理・改造を行わないでください。

⚠ 注　意

- 持ち運びの際は2人以上で装置の底面をしっかりと持って運んでください。
- 水、湿気、ほこり、油、煙の多い場所、また直射日光の当たる場所に設置しないでください。
- 装置に添付されている電源コード以外を使用しないでください。
- 電源コードは指定の電圧、コンセントに接続してください。
- 電源コードはタコ足配線にしないでください。

1 添付品を確認する

梱包箱を開け、添付品がそろっていることを確認してください。

- 本体
- 電源コード×1
- フロントベゼル
- セキュリティキー（本体背面に貼り付けられています）
- ラック搭載用取り付け部品（ユーザーズガイド*1参照）
- Yケーブル(KB/MS用)
- ソフトウェアパッケージ一式（バックアップCD-ROMを含む）
- EXPRESSBUILDERパッケージ*2
- SystemGlobe DianaScope Additional Server Licence(1)（DianaScopeのライセンス）
- お客様登録申込書
- 保証書（本体梱包箱に貼り付けられています）
- 使用上のご注意
- ご使用時の注意事項
- ユーザーズガイド*1
- フロントベゼル取り扱い上のご注意
- スタートアップガイド（本書）

重要 添付のCD-ROMは、再セットアップの時に必要となりますので大切に保管しておいてください。

*1 ユーザーズガイドはバックアップCD-ROMの中に格納されています。ユーザーズガイドやその他のオンラインドキュメントはAdobe Acrobat Readerで閲覧できるPDFファイルです。

*2 EXPRESSBUILDERパッケージの内容についてはEXPRESSBUILDER内の添付品一覧を参照してください。

2 ユーザーズガイドを読む

ユーザーズガイドはバックアップCD-ROMの中に格納されています。ユーザーズガイドはAdobe Acrobat Readerで閲覧できるPDFファイルで、次の場所にあります。

<バックアップCD-ROM>:/nec/Linux/cache/doc/cs500a_ug.pdf

ユーザーズガイドでは、本装置を安全に取り扱うための注意事項や*Startup Guide*では記載されていないセットアップに関する詳細な説明、運用やアップグレードに関する説明が記載されています。また、「故障かな?」と思ったときのトラブル回避の手段やサービスに関する情報も記載されています。本装置を取り扱う前にぜひお読みください。

ヒント：PDFファイルを閲覧するためには、Adobe Acrobat Reader 日本語版バージョン4.0以降が必要です。Adobe Acrobat Readerはアドビ社のWebサイトから無償でダウンロードすることができます(http://www.adobe.co.jp)。

製本されたユーザーズガイドが必要な場合は、もよりの販売店、またはお買い求めの販売店にお問い合わせください。また、ユーザーズガイドは、NECのWebサイトからダウンロードすることができます(http://nec8.com/　→　[サポート情報]をクリックしてください)。

3 ラックを設置する

本体はEIA規格に適合した19型(インチ)ラックか、卓上に設置して使用します。ラックに設置する場合は、次の条件を守ってラックを設置してください。

重要 ラックの設置は必ず複数名で行ってください。

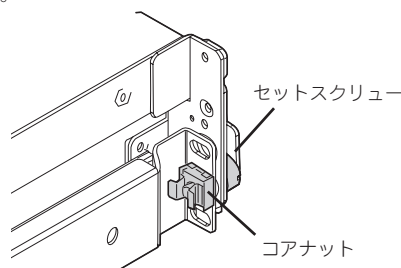
* 室内温度15℃～25℃の範囲が保てる場所での使用をお勧めします。

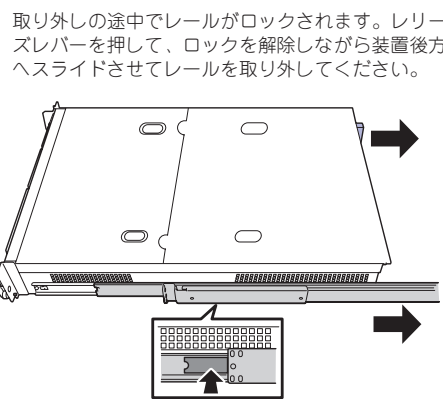
4 本体を取り付ける

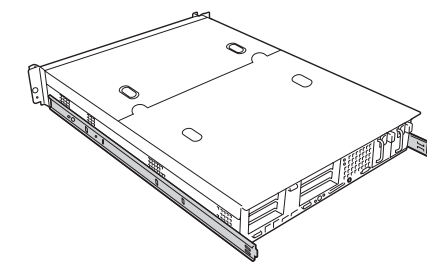
本体をラックに取り付けます。ユーザーズガイドの2章を参照してください。

重要 ラックの設置や本体の取り付けは必ず複数名で行ってください。

1. 本装置の添付品から、M5ネジ(8本)とM5コアナット(10個)を用意する。

2. 本体前面部の両側にあるセットスクリューを回して、裏側に取り付けられているコアナットを取り外す。

本体の運搬時にスライドレールが外れないようにセットスクリューとコアナットで固定されています。ラックへの取り付け前に左右に付いているコアナットを取り外してください(コアナットを手でしっかりと持ちながらセットスクリューを回してください)。

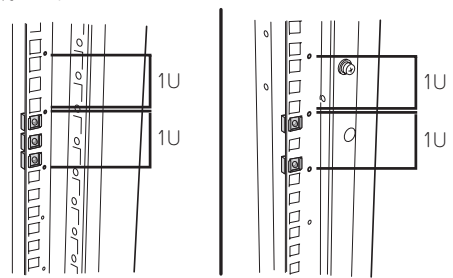
3. 本体左右に取り付けられているレールアセンブリを取り外す。

取り外しの途中でレールがロックされます。レリーズレバーを押して、ロックを解除しながら装置後方へスライドさせてレールを取り外してください。

レールアセンブリを取り外すと、本体にはネジで固定されたインナーレールのみが付いた状態となります。

レールアセンブリは、取り外したインナーレールに再度取り付けます。どちら側のインナーレールから取り外したものかわかるように印を付けるなどして区別してください。複数の本装置を設置する際もどの装置のどちら側のインナーレールから取り外したものがわかるように区別してください。

レバーやレールで指を挟まないよう十分注意してください。

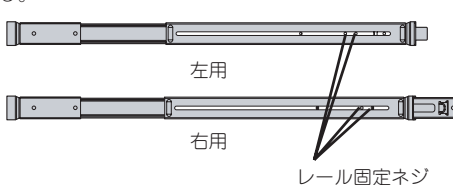
4. ラックの前後のマウントフランジにコアナットを取り付ける。

1U　1U　1U　1U

前面側　背面側

コアナットは前面側に各3個、背面側に各2個を取り付けます。本体はラックの「2U」分の高さを使用します。レールアセンブリは2Uのうち、下側の1Uに固定します(ラックのフランジ部には1U単位に刻印などの印があります)。

5. レールアセンブリの形状を見て、右用と左用を確認する。

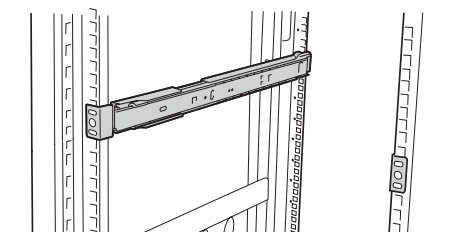
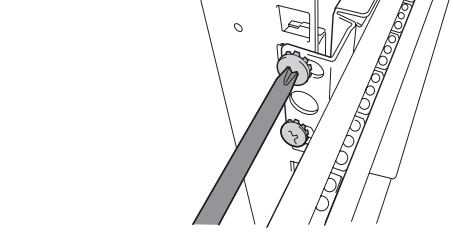
左用

右用

レール固定ネジ

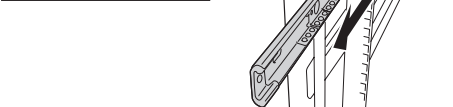
6. レールアセンブリのレールを固定しているネジをゆるめる(手順5の図を参照)。

ラックの奥行きに合わせて長さを調節するためです。

7. コアナットを取り付けた場所にレールのフレームを合わせる。

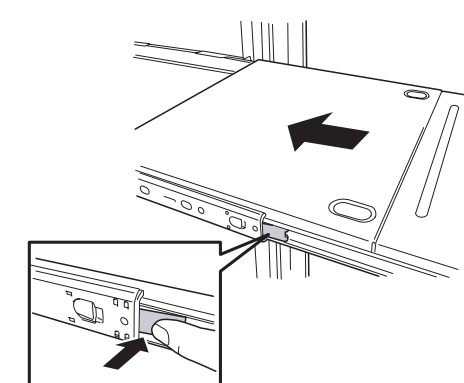
コアナットとレールのフレームでラックのフレームを挟むように位置させ、レールの長さを調節してください。

8. 前面と背面をネジで固定する(各2本)。

9. レール固定ネジを固定する。

10. 左右のレールアセンブリのスライドレールをロックされるまで引き出す。

途中で「カチッ」と音がしてロックされます。

11. 2人以上で本装置をしっかりと持ってラックへ取り付ける。

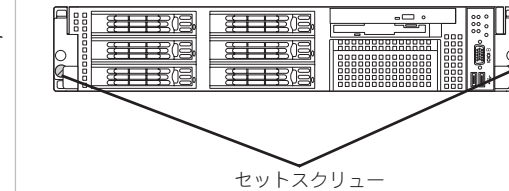
本装置側面のインナーレールをラックに取り付けたレールアセンブリに確実に差し込んでからゆっくりと静かに押し込みます。

途中で本装置がロックされたら、側面にあるレリーズレバー(左右にあります)を押しながらゆっくりと押し込みます。

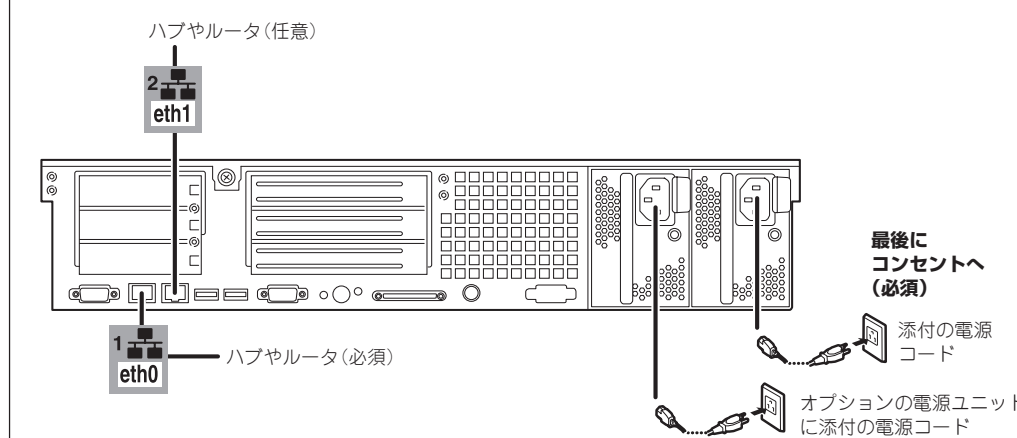
初めての取り付けでは各機構部品がなじんでいないため押し込むときに強い摩擦を感じることがあります。強く押し込んでください。

12. 本装置を何度かラックから引き出したり、押し込んだりしてスライドの動作に問題がないことを確認する。

ラック内の他装置と隣接する位置に本装置を取り付ける際は、他装置と本装置の筐体が干渉していないことを確認してください。もし干渉している場合は、他装置と干渉しないよう調整してレールアセンブリを取り付け直してください。

スライドレール部分の動作を確認してください。スライドレールがラックのフレームに当たり、引き出せない場合は、スライドレールを取り付け直してください。

13. 本体をラックへ完全に押し込み、前面の左右にあるセットスクリューでラックに固定する。

以上で完了です。

5 ケーブルを接続する

本体背面にLANケーブルを接続した後、添付の電源コードを接続します。ユーザーズガイドの2章を参照してください。

重要 LANポート1を必ず運用時のネットワークに接続してください。初期導入時のセットアップでは、LANポート1(システムからはeth0ポートとして扱われます)を使用してセットアップを進めます。LANポート2(eth1)は初期導入のセットアップを完了後、Management Consoleの[システム]→[その他]→[ネットワーク]で設定できる拡張用ポートです。

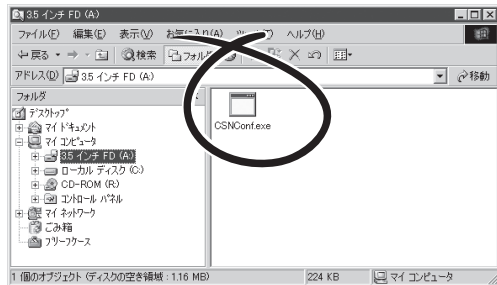
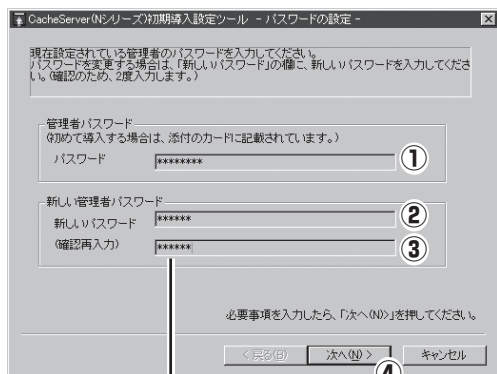
引き続きシステムのセットアップをします。裏面をご覧ください。

6 初期導入設定用ディスクを作成する

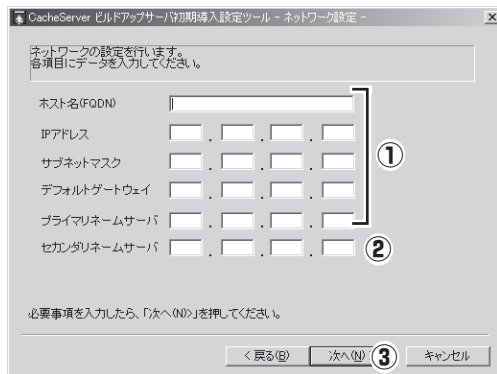
本装置をインターネット装置として運用するために最低限必要となる設定情報が保存されたディスクを作成します。添付の「初期導入設定用ディスク」とWindows XP/2000が動作するコンピュータを用意してください。詳しくはユーザーズガイドの3章を参照してください。

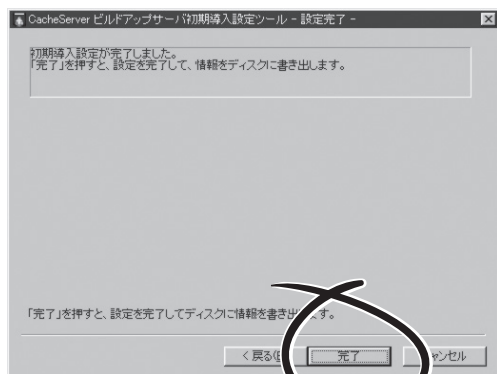
1. Windowsマシンを起動する。
2. フロッピーディスクドライブに添付の「初期導入設定用ディスク」をセットする。

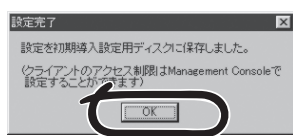
   初期導入設定用ディスクはライトプロテクトされていない状態にしてください。
3. エクスプローラなどからフロッピーディスクドライブ内の「初期導入設定ツール(CSNConf.exe)」を起動する。

   初期導入設定ツールが起動します。ツールはウィザード形式で進みます。入力した内容が間違っている場合は先に進めません。警告メッセージに従って入力内容を確認・修正してください。

4. 管理PCから本装置にログインする際のパスワードを設定する。
   ① 初めて設定する場合は本装置に添付の「rootパスワード」に記載されたパスワードを入力する。すでに本装置の設定をすませている場合は、設定済みのパスワードを入力する。
   ② adminでログインする場合のパスワードを設定する。
   ③ ②で入力したパスワードを入力してパスワードの確認をする。
   ④ [次へ]をクリックして次に進む。

パスワードは画面に表示されない(「*」で表示される)ため、タイプミスのないように注意する

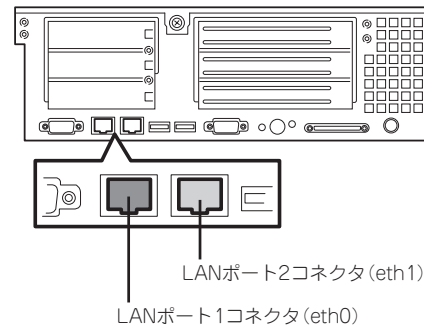
5. ネットワークの設定をする。

   ここで設定する情報はLANポート1(システムからはeth0ポートとして扱われます)に対するものです。LANポート2(eth1)は初期導入のセットアップを完了後、Management Consoleの[システム]→[その他]→[ネットワーク]で設定できます。
   ① タイプミスのないように各値を入力する。
   ② セカンダリネームサーバが存在する場合のみ入力する。
   ③ [次へ]をクリックして次に進む。
6. [完了]をクリックする。

   入力した内容が初期導入設定用ディスクに書き込まれます。設定完了のメッセージが表示されるまでフロッピーディスクドライブから取り出さないでください。

   設定内容を変更したいときは、[戻る]をクリックしてください。

7. [OK]をクリックし、初期導入設定用ディスクをフロッピーディスクドライブから取り出す。

   初期導入設定用ディスクは再セットアップの際にも使用します。大切に保管してください。

7 初期導入設定情報をロードする

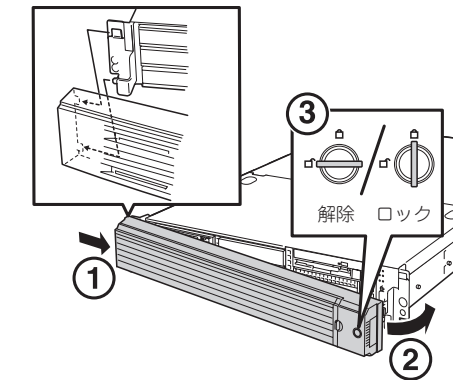
初期導入設定用ディスクの内容を本体にロードして初期セットアップをします。詳しくはユーザーズガイドの3章を参照してください。

1. 本装置のLANポート1コネクタ(eth0)とネットワーク環境として使用するHUBにLANケーブルが接続されていることを確認する。
2. ステップ6で作成した初期導入設定用ディスクがライトプロテクトされていないことを確認して、本体のフロッピーディスクドライブにセットする。
3. 本体の電源をONにする。

   セットアップを開始します。2～3分ほどで完了します。

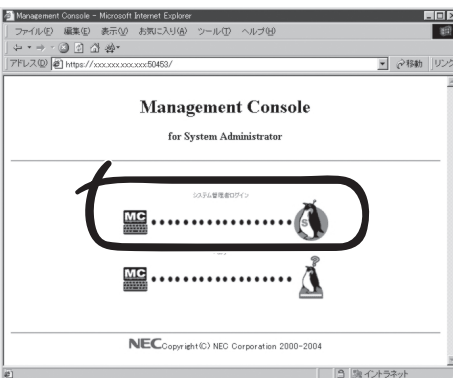
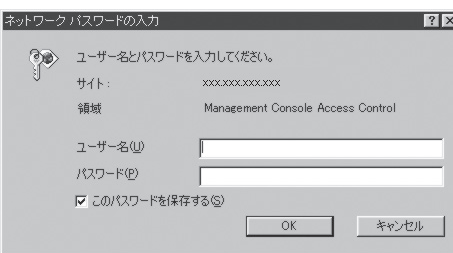
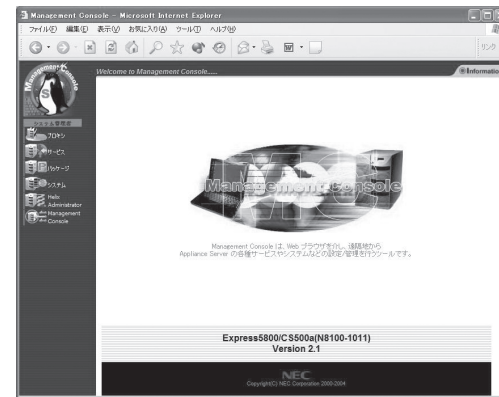
4. フロッピーディスクドライブのアクセスランプが消灯していることを確認して、初期導入設定用ディスクを取り出す。

   セットアップに失敗した場合はビープ音を鳴らした後、自動的に電源がOFF(POWERランプ消灯)になります。その場合は、Windowsの「メモ帳」などを使って初期導入設定用ディスクに書き出されたログファイル「logging.txt」を開いてエラーメッセージを確認し、トラブルの解決を試みてください。

   エラーメッセージの意味については、ユーザーズガイドの3章「システムのセットアップ」－「セットアップに失敗した場合」を参照してください。それでも解決できない場合は保守サービス会社にお問い合わせください。
5. 添付のフロントベゼルを取り付けてセキュリティキーでロックする。

   セキュリティキーは大切に保管してください。

8 システムにログインする

クライアントPCのWebブラウザからネットワークを介してシステムにログインします。詳しくはユーザーズガイドの4章を参照してください。

1. クライアントPC上でWebブラウザを起動する(Webブラウザは、Microsoft Internet Explorer 5.5 SP2(日本語版)・Microsoft Internet Explorer 6(日本語版)<推奨>・Netscape Communicator 7.0以降(日本語版)のいずれか)。
2. Webブラウザの設定を確認する(「プロキシを経由させない」・「キャッシュ機能を使用しない」)。
3. 「アドレス(または場所など)」に「https://<本装置に割り当てたIPアドレスまたはFQDN>:50453/」と入力する。
4. [システム管理者ログイン]をクリックする。

5. ユーザー名に「admin」、パスワードにはセットアップ時に指定した管理者パスワードを入力する。

管理者用のトップページが表示されます。

9 各種セットアップをしてシステムをアップデートする

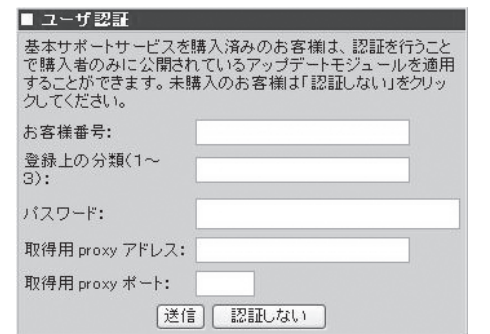
Webブラウザに表示された画面からさまざまなシステム設定ができます。詳しくはユーザーズガイドの4章を参照してください。

- プロキシサーバの状態確認や設定、フィルター設定、スケジュールダウンロード設定をする ―― プロキシ
- 時刻調整やSNMPを使った管理機能の設定、telnetログインやWPADサーバの設定をする ―― サービス
- アプリケーションのアップデートやソフトウェアのインストールをする ―― パッケージ
- システムのシャットダウン/リセットや状態表示、その他詳細設定をする ―― システム
- 別売のHelix Universal Server/Helix Universal Proxyに関するセットアップをする ―― Helix Administrator
- ログイン時のセキュリティ設定やアクセスを許可する待ち受けIPの制限をする ―― Management Console

本装置のシステムを最新の状態にアップデートします(購入時のシステムバージョンによってはアップデートをする必要がない場合もあります)。詳しくはユーザーズガイドの4章を参照してください。

1. システム管理者メニューの をクリックする。
2. [オンラインアップデート]をクリックする。
3. [ユーザ認証]に必要な項目を入力し、[送信]をクリックする。

   基本サポートサービスを購入された場合のみ入力してください。サービスを購入していない場合は、何も入力せずに[認証しない]をクリックしてください。

   公開されているアップデートモジュールの一覧が表示されます。モジュールを選択して[適用]をクリックしてください。以降がメッセージに従って操作してください。

10 ESMPRO/ServerAgentの設定をする

本体の状態を監視するソフトウェア「ESMPRO/ServerAgent」がインストール済みです。ファンやマザーボード、ハードディスクドライブ、本体の温度などを監視するこのソフトウェアの設定(しきい値やイベントの通報先)をします。

詳しくは、バックアップCDにあるESMPRO/ServerAgentユーザーズガイドを参照してください。

<バックアップCD-ROM>:/nec/Linux/esmpro.sa/doc/users.pdf

接続に使用するクライアントマシンによっては罫線が文字化けすることがありますが、それぞれの機能は問題なく動作します。

11 管理コンピュータのセットアップをする

本装置をネットワーク上から管理・保守するソフトウェアを管理コンピュータにインストールします。ソフトウェアは、本体に添付の「EXPRESSBUILDER (SE) CD-ROM」に含まれています。管理コンピュータのCD-ROMドライブに「EXPRESSBUILDER (SE) CD-ROM」をセットすると表示される「マスターコントロールメニュー」からそれぞれインストールすることができます。詳しくはユーザーズガイドの2章または5章を参照してください。

以上で完了です。